

剪定枝のリサイクル手法の比較

項目	ケースA	ケースE	ケースF
	焼却処理	小さな地域でのチップ化、堆肥化	大きな地域でのチップ化、堆肥化
先進事例	(現状)	国営昭和記念公園	町田市、鎌倉市
①環境負荷(二酸化炭素排出量)	17,400(t-CO2/年)	17,400(t-CO2/年)	17,900(t-CO2/年)
②経済性(コスト)	28.3(億円/年)	28.5(億円/年)	29.5(億円/年)
③リサイクル量	0(t/年)	200(t/年)	6,900(t/年)
④リサイクル原料の確保	—	容易	多少困難
求められる分別精度	分別の必要性なし	高い精度が必要	高い精度が必要
処理エリア	広い	狭い (排出者、利用者が特定)	広い (排出者、利用者が不特定)
⑤排出者の負担	—	現状(一部非常に高い)	高い
分別区分	無	無(一部有)	有
⑥リサイクル製品の利用先の確保	確保は容易	確保は容易	すべての堆肥の利用先を確保できない可能性がある
リサイクル製品(利用方法)	熱(発電、温水利用など)	チップ、堆肥	チップ、堆肥
利用先	施設内	家庭、公園、農家等	家庭、公園、農家等
⑦処理施設の規模	熱回収施設: 320(t/日)	熱回収施設: 320(t/日)	堆肥化施設: 30(t/日) 熱回収施設: 300(t/日)
⑧アンケート調査結果	17.6%	50.1%	19.4%